



京の芸妓・舞妓が
教えてくれた
京都暮らしの



5つの魅力



京の芸妓・舞妓が 教えてくれた 京都暮らしの 5つの魅力

今回お話を伺ったのは、京の伝統文化に魅入られて全国各地から移住してきた5人の女性。京の花街に飛び込み、厳しい稽古を積み重ねて、伝統伎芸とおもてなしを担う芸妓・舞妓として活躍中です。京都へ移住し、働き暮らししている彼女たちに、京都暮らしの魅力を教えていただきました。



1

昔から自然と人の 距離感が近いまち

京都の人は みんなあたたかい

踊りをやっていた祖母の影響で、小さい時から芸事が好きだった。京都へ行って舞妓さんになると決めたのは中学1年生の時でした。そのまま京都で暮らして17年、故郷で育った時間より京都が長くなりました。京都は「見さんお断り」とか「見冷たく見えますけど、身内やと思っただけはつてからはすくあたたかいので、逆に余所よりも暮らしやすいんじゃないかなと思います。今、うちの両親も愛媛から京都へ来て一緒に住んでるんですけど、最初はこわこわ来はったんです。京



都の人って実はみんな教えたがりで親切と知ってからは、今ではわたしより友達も多くなって、京都暮らしを満喫してはります。

歩くだけで 季節を感じる

京都って、ちょっと歩けば有名なお寺さんにもすぐ行けますし、とてもコンパクト。市内には大きな鴨川が流れていて人と自然が近いまちなあとも思います。鴨川は桜や紅葉の季節は本当に綺麗です。歩いているだけで季節のうつろいを感じられるので、それはやっぱり京都の魅力です。人もモノも風景も、観光だ

眞生まきさん 祇園甲部 芸妓

PROFILE

京都歴..17年
出身地..愛媛県
三味線の師匠だった伯母の影響で3歳から三味線を習う。踊り手だった祖母と伯母の手ほどきを受け、芸事の道へ。休日は、能や狂言などの舞台鑑賞とともに、美味しいものの好きの仲間たちと一緒に食べ歩きをするのが至福のひととき。

【鴨川】

京都市の中心を南北に貫く鴨川は、散歩やジョギング、デートなどを楽しめる市民のオアシスです。川沿いでは春は桜、夏は納涼床、秋は紅葉など、まちなかにいながら四季折々の光景や自然を手軽に感じることが出来ます。高野川と賀茂川の合流地点、鴨川デルタは、映画やドラマのロケ地としても有名。千鳥や亀の飛び石があり、休日には学生や親子連れ、観光客で賑わいます。

2

心に響く風景が
まちなかにあります



宮川町 舞妓
とし恵美さん
京都歴…3年
出身地…東京都
4人きょうだいの次女。小学3年生の時にヒップホップとジャズダンスに出会い、表現することの楽しさに目覚める。舞妓になった現在も、踊りが一番好き。休日には近隣のおしゃれなカフェや、路地裏のかわいい雑貨屋をめぐっている。

大好きな時代劇の
世界が広がるまち

小さい頃から時代劇が大好きで、おきものとか日本髪に憧れていたんですけど、中学の修学旅行で京都に寄せてもらった時に初めて、舞妓さんの存在を知りました。見た瞬間「これや!」と思って、将来の夢が決まり、中学を卒業した2014年の初夏、舞妓さんになるために京都へやってきたんです。住んでみて、やっぱりこのまちは素敵やと思いました。特に東山には、清水寺や八坂神社があつて、ほんまに京都らしい光景が広がっています。八坂の塔を望む景色はいつ見ても心に響いて、ここを通るたびに、京都は大好きな時代劇の世界が広がっているまちなあとだと思います。

伝統と文化を
みんなで守っています

芸妓さんや舞妓さんがいる「花街」も、京都のまちなかにあつて、うちらは日々、舞やお囃子、お三味線といった日本の伝統伎芸を学び、お稽古に励んでいます。うちらだけやのうて、大先輩のお姉さん方も、お家元も、お師匠さん方も、「まだまだや」とお稽古をされている姿を間近で見て、ほんまに芸には終わりが無いなと思います。伝統文化は人の手で守られ、うちもその伝統を守っていく一人なんやということを実感しています。

【八坂の塔】

石畳の坂道と和風建築群、そして五重塔を見上げる京都を代表する美景の一つ。五重塔は飛鳥時代に聖徳太子が創建したと伝わる古刹・法観寺の境内に建ち、「八坂の塔」の通称で親しまれています。昔から変わらない風景のように見えますが、実は無電柱化事業や景観条例など美しいまちなみを守るための様々な努力に支えられている風景です。

3

世界遺産が 日常の景色です



先斗町芸妓

千鶴さん

京都歴…8年

出身地…東京都

「趣味は新選組」と公言するほどの「新選組」の熱狂的ファン。好きな隊士は山南敬助。お寺や歴史・日本古来のものが好きで、休日には新選組旧跡巡りのほか、人が少ない穴場の寺院を巡っている。御朱印も200近く集めている。

どうしても先斗町で
舞妓になりたかった

小学6年生の時にNHK大河ドラマを観て初めて新選組を知り、なんてカッコイイ人たちなのだろうと思い、憧れました。新選組関連の小説を読んでいたところ、池田屋事件の際に先斗町を通る描写があつて、新選組と関わりがある花街・先斗町のこと、そして舞妓さんがいる町だと知り、舞妓になるならこの先斗町以外にはないと思いました。念願が叶った時は、本当に嬉しかったです。京都に来てからは、新選組にゆかりある壬生寺や八木邸によく足を運んで、大好きな新選組の足跡をたどっています。何回行っても飽きやしませんね。「ここを歩いてはったんかなあ」とか考えるだけでも嬉しくて、そんな京都暮らしを楽しんでいます。

歴史が動いてきた
日本の中心地

この元離宮二条城をはじめ、京都には17もの世界遺産があります。一つの都市にこんなにも世界遺産が集中しているのも珍しいですが、それは日本の中心地として、京都で歴史が動いてきた証ではないかと思っています。そのまちで新しい歴史を刻んでいくこと、伝統を繋いでいくことが大切やと思い、うち自身も日本の伝統芸能を大事にしながら、日々過ごしています。

【元離宮二条城】

1603（慶長8）年、江戸幕府を開いた徳川家康が京都御所の守護と上洛の際の宿泊所として築城しました。1867（慶応3）年に15代將軍・慶喜が「大政奉還」を決意し260年にわたる江戸幕府が終焉、日本の新しい時代が始まった歴史的に重要な場所であり、ユネスコ世界遺産にも登録されています。極彩色の彫刻が施された唐門や、狩野派による障壁画など、絢爛たる桃山文化の遺構を見ることが出来ます。

憧れの京都に 住みたかった

京都を初めて訪れたのは、舞妓さんになるための面接を受けに来た中学3年生の時でも、ものすごく緊張していたことを覚えています。せやけど、自分が憧れていた場所を目の前に、「写真よりも本物の方が絶対いいな」と思いました。元々、本やテレビで見る京都の風景に憧れがあったんですけど、ある時、雑誌で上七軒の舞妓さんの特集を見て興味を持ったんです。舞妓さんになれば京都にも住める…そう思っ面接を受けに行きました。そして中学卒業後に、上七軒での生活が始

まりました。上七軒は落ち着いた雰囲気、京都最古の花街です。～近所さんたちもみんなうちら芸妓舞妓のことを大事にしてくれはって、優しいまちですね。

伝統を大切にしながら 新しいものを生み出す

ここ岡崎にはよく行きますね。平安神宮に参拝したり、疏水沿いをお散歩したり…図書館や美術館といった文化施設も多くてお気に入りの場所です。古い建物を、良いものを残したまま現代に合わせたレトロモダンな建物にリノベーションしてるのは、見ていて楽し

いですね。花街とはまた違った魅力があって、伝統を大切にしているまちだからこそ、新しいものが生まれていくのだと思います。

【岡崎エリア】

岡崎エリアは、明治時代に琵琶湖疏水の開削や内国勧業博覧会の開催などによって近代化を牽引してきた地域。今も、平安神宮や、美術館、図書館、動物園などの施設が集まる文化交流ゾーンとして発展し続けています。その賑わいの中心、文化芸術拠点「ロームシアター京都」にあるカフェ&レストラン「京都モダンテラス」の明るく開放感ある店内では、お食事とともに京都での時間をゆくりと楽しんでいただくことができます。

4

新しい魅力が 生まれ続けるまち

PROFILE

市桃さん

上七軒 芸妓

京都歴…10年
出身地…高知県

お休みの日は公共交通機関を使ってお出かけし、まち歩きをする。まちなかにある胸札は、いつい立ち止まって読み込んでしまう。近所の北野天満宮もお気に入りのスポットで、御土居ののんびり苑や梅苑を歩いたり、水占みくじを引くのが楽しい。



5

マンガも映画も 京都で育っています



©Tezuka Productions



祇園東 舞妓	叶紘 かのひろ さん	PROFILE 京都歴…4年 出身地…宮崎県 幼少期から踊りとおきものが好き。祇園東は芸妓・舞妓の数こそ少ないが、みんな顔見知りで距離感が近いというアットホームな環境がお気に入り。京都の舞妓さんであることに誇りを持っていて、どんな時でも笑顔を心がけている。

周囲の反対を 押し切った 舞妓さん

中学2年生の時に、地元・宮崎で開催された京都物産展へ行きました。その時に初めて舞妓さんや芸妓さんを見たんです。そこで目にした舞妓さんの舞に「瞬で心を奪われて、その場で「舞妓さんになりたい」と、物産展にいらしていた方に直談判しました。その方が、今お世話になっている祇園東の屋形のおかあさんです。当初は、両親にも周りからも反対されましたが、「舞妓さんは15歳から20歳前後までのわずかな期間しか出来ないから」と説得してこの世界に入り、京都へと参りました。いずれは、この道に進むキッカケとなった憧れの姉さんのような芸妓さんになりたいと思っています。

文化スポットにも 気軽に行けます

うちは日本の映画を見るのが好きなんですけど、映画を見てからその原作になったマンガや小説を読むことが多いんです。京都を舞台にしたマンガやアニメ、映画もぎょうさんありますよね。京都には、ここ京都国際マンガミュージアムみたいな、マンガの歴史や文化を楽しめる場所もあって、歴史だけじゃなく、現代的な文化スポットやアートスポットもたくさんありますね。いろんな見どころへ気軽に行けるのも京都の魅力だと思います。

【京都国際マンガミュージアム】

2006年11月に開館した、日本初のマンガ総合博物館。国内外30万点以上の貴重なマンガ資料を所蔵。約5万冊が「マンガの壁」と呼ばれる書架に並び、自由に読むことができます。世界に誇る文化「クールジャパン」を牽引する施設となっているほか、元小学校跡地を改修した敷地内には人工芝のグラウンドもあり、運動会など地域住民のコミュニティ広場としても活用されています。

花街の文化

京都の伝統伎芸とおもてなし文化を象徴するのが、京の花街（かがい）。本物へのこだわりを大切にしながら育まれた華麗で洗練された文化は、国内外から高い評価を受けています。

伝統伎芸とおもてなしの担い手「芸妓」「舞妓」

華やかな姿で座敷に彩りを添える舞妓さん。舞妓になるには、まずは「仕込み」として「屋形（置屋）」に住み込み、手伝いをしながら舞・踊りなどの芸事や作法、京ことばなどを習得します。ある程度身に付いたら実際に座敷に出る「見習い」期間を経て、店出し（お披露目）をしようやく「舞妓」に。舞妓になった後も芸事などの厳しい稽古を積み重ね、衿替え（芸妓としてお披露目すること）して「芸妓」となります。そして公演や座敷で、その磨き上げた芸と艶やかな美しさ、優雅で洗練された所作で客をもてなします。

※芸妓は、舞・踊りを主にする立方（たちかた）や、唄や三味線、鳴物などの演奏を受け持つ地方（じかた）として、得意な芸事に磨きをかけます。



花街を支える「ひと」「わざ」「もの」

独特の髪型や美しいきもの、三味線や笛などの邦楽器、舞台や座敷を飾るしつらえ…。芸妓や舞妓の姿を引き立てている様々なものに、髪結い師や着付け師をはじめ、きものや帯、かんざし、扇子、おしろいなどを作るとても多くの職人の「わざ」が凝縮しています。

職人の手から手へと受け継がれてきた伝統工芸の「わざ」は、花街をはじめ京都の雅な文化の中で洗練され、精緻を極めてきました。花街では、いたるところに京都の多彩な伝統工芸を見ることができ、高い技術を誇る京都の伝統工芸が花街の文化を支えていると言えるのです。



花街のおもてなし

花街のおもてなしは、芸妓や舞妓の芸やお座敷遊びなど、客も参加しながら宴席を和ませる独特の文化です。このおもてなし文化を支えているのが、芸妓や舞妓、料理などの手配、座敷のしつらえなど、客の好みや利用目的に応じたおもてなしを提供する「お茶屋」、舞妓たちを住まわせて芸事やしきたりを教え、お茶屋などに派遣する「屋形（置屋）」、そして宴席の料理を提供する「料理屋」や「仕出し屋」などで、それらが協働しています。

「見さんお断り」といった慣行があるのは、客のことをよく知り、より高いレベルのおもてなしを提供するため。そして、おもてなしを受ける側も、お茶屋との信頼関係を築き、より深く芸を楽しむために伝統伎芸への見識を深めることが求められています。



京の五花街

伝統の美とわざの粋にふれる。一度は行きたい、おもてなしの殿堂。

祇園甲部



「祇園さん」の通称で親しまれる八坂神社の門前町として栄え、現在でも江戸時代の茶屋建築の面影を残す風情ある街並みが独特の情緒を形作っています。舞踊は京舞井上流で、春に「都をどり」、秋には「温習会」の公演を行います。

宮川町



鴨川の東側、四条通から五条通までのしっとりとした街並みが美しい花街。江戸時代に出雲阿国の歌舞伎公演が行われ、芝居町や茶屋町として発展し現在に。舞踊は若柳流。春に「京おどり」、秋に「みずゑ会」の公演を行います。

先斗町



鴨川と木屋町通の間、三条通から四条通に至る通りの花街。北側には先斗町歌舞練場があり、鴨川からはその存在感ある佇まいを眺めることができます。舞踊は尾上流。春に「鴨川をどり」、秋に「水明会」の公演を行います。

上七軒



室町時代、北野天満宮の修造にあわせて七軒の茶店を建て、参拝客の休憩所としたのが上七軒の始まりと言われています。舞踊は花柳流で、春に「北野をどり」、秋に「寿会」の公演を行っています。

祇園東



もともと祇園甲部と同じく八坂神社の門前町として江戸時代から栄えてきた花街。明治14年に区分され、祇園甲部の北側エリアが「祇園東」となりました。舞踊は藤間流。秋に「祇園をどり」の公演を行います。



みんなが暮らしているまちなかに、寺社や町家などの歴史的景観、お茶やお花などの伝統文化、受け継がれてきた季節の行事や風習…。伝統文化と現代の生活が調和した暮らしも京都の魅力です。



伝統文化が暮らしに溶け込んでます



あったかい、人と人とのつながり

都市化が進んだ今も、地域の人々の温かなつながりが息づいている京都のまち。地域の人たちとの交流のなかからヒントを得て、自分らしい生き方を切り開いたという移住者の声も多く寄せられています。

お隣の都市にもこの近さ。
私鉄で行くルートもあって、
お出かけに便利どすえ。

お隣の都市にもこの近さ。
私鉄で行くルートもあって、
お出かけに便利どすえ。



広

京都市長



文化でつながるまち・京都

今回御登場の芸妓さん、舞妓さんは、京都に移住され、日々「京の花街」で伝統文化やおもてなしを担う方々。彼女たちのように、昔から多くの人々が京都のまちに飛び込み、人に触れ、文化と触れ合う中で、京都とつながり、多様な文化の担い手、創り手となってきました。

そう、京都は決して閉鎖的ではありません。人と人、心と心をつなぎ、そこから生まれる文化を大切にして千年を超える時を紡いできたまちなのです。

暮らし试着て初めて得られるつながりがいっぱい。さあ！皆さんも京都のまちに飛び込んでみませんか。

京都市への移住の進め方&役立つ情報

「移住」とひと言で言っても何から始めればいいのか悩んでしまうもの。
あなたに合ったスタイルで移住の実現に向けてステップを踏んでみましょう。

京都移住チェックリスト

第1歩

どんな暮らしがしたいかイメージを明確にしましょう

- 移住の目的をはっきりさせて、譲れない条件を絞りましょう。どこに住むか、どんな働き方か、子育て、趣味などなど。
- ご家族やパートナーと一緒に移住することを考えている場合は、移住後の暮らしについて話し合しましょう。

第2歩

暮らしの情報を集め、候補地を絞り込みましょう

- 観光情報だけではなく、気になる地域の暮らしの情報を集めましょう。
- 感じたことを整理しながら候補地を絞り込みましょう。

第3歩

候補地の雰囲気や暮らしぶりを体感しましょう

- 気になる地域にお試しで滞在し、まちの雰囲気や暮らしを体感しましょう。

第4歩

やりがいのある、仕事を探しましょう

- 就きたい仕事、実現したい働き方を整理しましょう。
- 就労、起業などの専門窓口を活用して、仕事を探しましょう。

第5歩

理想の住まいを探しましょう

- 理想の住まい、暮らし方を整理しましょう。京都市内には様々な物件があります。
- 京都には京町家も。民間不動産業者も含め、様々な窓口を活用して、住まいを探しましょう。

第6歩

準備をして、さあ京都へ！

- 引越し先のご近所への挨拶、自治会・町内会への入会を忘れずに。
- 地域のイベントやお祭りに参加して、京都の文化を満喫しましょう。

京都市移住Webサイト
「住むなら京都」
のココを
CHECK!

「京都暮らしカタログ」

京都移住の様々な
体験エピソード集



<http://cocoronosousei.com/catalog/>

「京都に暮らす魅力」

京都ならではの
モノ・コト・キを紹介



<http://cocoronosousei.com/appeal/>

「京都市の11区」

個性豊かな11区を紹介



<http://cocoronosousei.com/appeal/11ku/>

「移住に役立つ情報」 〈しごと〉

お仕事探しに役立つ情報を紹介



http://cocoronosousei.com/link/link_working/

「移住に役立つ情報」 〈すまい〉

住居探しに役立つ情報を紹介



http://cocoronosousei.com/link/link_housing/

京都市移住Webサイト
「住むなら京都」では、
「子育て・保育・教育」や
「医療・福祉」「防災・安全」に
関する情報も発信中!

京都市移住サポートセンター「住むなら京都(みやこ)」

ようこそ みやこ

京都窓口 0120-453-385

9:00~17:00 ※土、日、祝日も電話相談可(休)年末年始のみ
FAX: 075-212-2902 E-Mail: sosei-senryaku@city.kyoto.lg.jp
URL: <http://cocoronosousei.com/>
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
京都市 総合企画局 総合政策室内

東京オフィス

TEL: 03-6551-2671
9:00~17:00 (休)土、日、祝日、年末年始
東京都千代田区丸の内一丁目6番5号
丸の内北口ビルディング14階
京都市 東京事務所内

北部山間移住相談コーナー

TEL: 075-852-1828 (FAX兼用)
E-Mail: kyoto-hokubu@city.kyoto.lg.jp
10:00~12:00 / 13:00~16:00 (休)火、木、土、祝日、年末年始 他
京都市右京区京北周山町上寺田1-1
京都市 京北出張所内